

委員会レポート

委員会では、付託された議案等の審査や所管する事項の諸問題について調査を行っています。

《総務委員会》 委員長 栗原 繁 7月20～21日

●スクールバス混乗について

視察先…長野県 長野市
長野市の「市町村運営有償(市バス)」は、市町村合併前の旧町で行っていたバス運行を引き続き行っているものです。

スクールバス混乗についても、市町村合併前から運行されていたものであり、現在も路線など再編のうえ、スクールバス混乗を実施しています。

市バスのうち、信州新町地区の「南武線」「細尾線」「水内線」「牧内塩本線」は、スクール混乗路線バスとなっています。また、旧合併町村以外では、篠ノ井新里地区においても「新里線」がスクールバス混乗路線として運行しています。

運行の概要は、市所有バスの運転を委託し、運賃は、1乗車で大人200円、小学生100円。運行日は、週に5日程度、運休日は祝休日、お盆、年末年始。利用児童生徒数は、小学生が34名、中学生が32名となっている。

●消防力の充実強化について

視察先…山梨県 甲斐市
平成16年9月の合併から平成23年までに約1割の消防団員数の減少があり、消防団員の確保を目的として、新規採用職員に



よる2年間の消防団入団研修、消防団OBによる機能別団員制度によって団員数607名まで回復した。消防団員の減少、高齢化及び活動の活性化を図るため、平成24年度から職員採用試験要件において、採用後に甲斐市内に居住することが可能なこと、また、甲斐市消防団への入団研修を2年間行うことを定めている。

また、消防団退団者で組織する「甲斐市消防協力会」という団体があり、74名が在籍し、現役の消防団員のサポート、消防団事業への協力及び消防備品の補助などを行っている。

行政視察の結果を報告いたします

《教育厚生委員会》 委員長 鈴木 裕 6月28～29日

●小中高一貫教育について

視察先…山形県 小国町
小国町には、小学校2校、中学校2校、高等学校1校がある。平成13年度から平成18年度までの6年間、町内の全小中学校が文科省から「小中高一貫教育研究開発校」の指定を受け、小中高一貫教育の実践に向けて取り組んできた。平成23年度からは、町内全ての小中学校が文科省より「教育課程特例校」の指定を受け、「国際・情報」の学習を国語や算数等と同じように「教科」として実施している。

平成31年度から小国小学校と中学校が「小中一貫型 小学校・中学校」として設置されることになる。

子ども達の通学には、無料の町営のスクールバス11台を運行している。小国小学校では、各クラスで電子黒板をほぼ毎日利用し、児童もタブレット端末を自在に操り、ICT教育、探究型学習を推進している。

小中高一貫教育の方針としては、①継続した「人間力」を育成、②教員の連携、児童生徒の連携、学校と地域の連携③特色ある本町教育の充実としている。

●総合保健福祉施設の先進的な取り組みについて

視察先…山形県 東根市
平成17年に市民の保健・福祉・医療サービスの拠点施設として、総合保健福祉施設「さくらんぼタレントルセンター」を整備。施設の中には、保育所をはじめ、子育て支援センター、総合健診室、休日診療所、大ホールなどがあり、多くの市民が利用し、交流が盛んに行われている。子育て支援の拠点施設、市民と行政による協働のまちづくり活動、情報発信の拠点施設として、大変魅力的な子育て支援策となっている。

「子育てするなら東根市」をキャッチフレーズに、先駆的な子育て支援策や「遊育」施設を整備し、若者・子育て世代の転入で順調に人口を増加させている。



《経済建設委員会》

委員長 小林 久

7月6～7日

●湯く園地計画について

視察先・大分県 別府市

平成28年4月16日に発生した熊本地震によって基盤産業である観光産業が風評被害に苦しむなど大きな打撃を受けた。そのため、早期の復旧・復興に向けた取り組みの一環として、別府市の魅力を国内外に向け幅広く発信することを目的とし、新たな市のビジョン「遊べる温泉都市構想」を策定し、第1弾として湯く園地計画が計画された。

この計画は、温泉と遊園地を融合させ温泉につかりながら楽しめる仮想の「イメージメント施設「湯く園地」のイメージビデオを制作し、インターネットで公開した。この中で市長が「再生回数が100万回を達成した場合、実際に別府市内で『湯く園地』計画を実行する」と公約。そのわずか3日後に再生回数が100万回を超えたことで計画の実現に向けた詳細な計画を策定。

さらにこの計画は公費を使わず、寄附やクラウドファンディングなどで事業費を賄う全国でも例を見ない試みで行うこととし、平成29年7月29日から31日の3日間、遊園地「別府ラクトエント」で実施することとなった。

7月5日現在7,151万1,690円が募られた。

●農業生産工程管理(GAP)普及推進について

視察先・佐賀県 佐賀市

農業生産工程管理(GAP)普及促進については、2020年東京オリンピック・パラリンピックの食糧調達基準等を見据え、国においても力を入れており、佐賀市においては、県と連携し、県GAPモデル地区を設置し、平成32年までに米やたまねぎ、アスパラ、みかんなどの認証を目指している。

市の取組みとして、平成29年度から「佐賀市農業生産工程管理(GAP)普及推進事業補助金を設け、認証に係る経費の一部を補助することとなっている。

●6次産業化・農商工連携について

「いいモノさがし」認定制度を実施し、6次化商品の開発推進や農商工連携にも力を入れていく。



行政視察の結果を報告いたします

《広報委員会》

委員長 平野 和

7月5日

●議会だよりの編集について

視察先・福島県 郡山市

議会だよりは「こおりやま市議会だよりの」として、定例会開会の翌々月1日発行、年4回であり、1回の発行部数は108,800部である。そのほか、点字版や音声版も作成している。掲載記事の内容は、代表質問、市政一般質問を中心に、議案等の議決結果、次回定例会開催予定等で構成している。特に、議案の可否について、全会一致、賛成多数等詳しく標記し、会派ごとの議決結果も掲載している。

●議会中継について

視察先・福島県 南相馬市

南相馬市議会の議会中継はインターネットにて生放送と録画放送を配信している。目的としては、行政やまちづくりへの市民の参画意識の高揚、情報公開の推進による議会運営の透明性の確保、すべてをインターネットで明らかにすることで緊張感が高まり、議員、職員の資質の向上、議会の活性化などがあげられる。

配信する会議としては、定例会及び臨時会の全ての会議を生放送しており、録画放送については、会議日から5日後を目安に配信している。インターネットの録画放送が視聴できる期間は、議会議録がイン

ターネットで公開されるまでの約2か月間となっている。

議会中継は平成20年6月に開始し、導入経費は約500万円、平成28年9月には、機材の老朽化によりシステムを更新する。

議会中継は、みなみそうまチャンネル(エリア放送)でも放送している。みなみそうまチャンネルでは、生放送は行っておらず、録画放送のみで放送を行っている。

放送時間は市民が視聴しやすい日時、放送の公平性を勘案し、ゴールデンタイムに時間を合わせ、午後6時から9時ごろまでの約3時間の時間枠を確保し、連続で放送している。ただし、本会議場に設置されているカメラがアナログ形式であり、インターネット配信用に圧縮した画像を取り込んでいるため画質が粗い等の問題もある。

